

精神保健福祉センター 所報

令和3年度

鹿児島県精神保健福祉センター

巻頭言

令和3年度の鹿児島県精神保健福祉センター所報が完成しましたので、ここにご報告いたします。

令和3年度は我が国では新型コロナウイルス感染症の第4波、第5波、第6波の3回の波がありました。その間にまん延防止等措置や緊急事態宣言があり、大規模ワクチン接種が行われました。また、第5波のときに無観客で東京オリンピックが開催されました。新型コロナウイルスがデルタ株からオミクロン株に変異すると感染力は強まり、国内新規感染者のピークは第4波で7千人を超え、第5波で2万5千人を超え、第6波で10万3千人を超えました。感染予防対策としてイベントや飲食店での会食の自粛や会議や研修会、授業はオンライン、テレワークなど直接的な人との接触を減らす生活様式に変化することが求められる一方で自粛による経済活動の停滞、生活困窮者の増加、人とのつながりの希薄化、社会的孤立などの問題も生じました。

当センターの業務では、普及啓発においてYouTube配信をしたり、技術援助・教育研修において自殺対策や依存症対策、思春期精神保健福祉などの研修会をオンライン開催としたりするなど、感染予防対策に配慮しながら中止することなく実施しました。思春期相談や依存症相談へのニーズは高く、多くの相談がありました。調査研究では国立精神神経医療研究センター作成の「薬物依存症をもつ家族を対象とした心理教育プログラム」の効果について、アンケート調査に協力しています。関係団体の育成として家族会や患者会等の支援を行っていますが、コロナ禍のためにひきこもり家族の会や依存症家族教室などが中止となることもありました。精神医療審査会では離島における退院等請求ではオンラインによる意見聴取を実施し、感染予防対策と入院患者の権利擁護を両立できるように努めました。自立支援医療費及び精神障害者保健福祉手帳の申請は年々増加しておりますが、交付は遅滞なく進めています。高次脳機能障害者支援センター及び自殺予防情報センターでは相談件数の増加に対応しながら研修会や家族会の支援も行っています。また、昨年度から継続して新型コロナ感染者の宿泊施設入所者への心のケア活動を行いました。

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた1年となりました。今後も当センターの業務に関しまして関係各位の皆様の益々のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年10月

鹿児島県精神保健福祉センター

所長 春日井 基文

目次

巻頭言

I 概要

- 1. 沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 組織, 職員及び施設概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

II 事業実績

- 1. 普及啓発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2. 技術援助・教育研修・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3. 精神保健福祉相談・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 2
- 4. 思春期精神保健対策事業・・・・・・・・・・・・ 1 6
- 5. 依存症対策関連事業・・・・・・・・・・・・ 1 7
- 6. 調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 0
- 7. 関係団体の育成・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 0
- 8. 精神医療審査会の審査に関する事務・・・・・・・・ 2 2
- 9. 自立支援医療費(精神通院)及び精神障害者保健福祉手帳の判定交付事務・ 2 2
- 10. 高次脳機能障害者支援センター・・・・・・・・ 2 5
- 11. 自殺予防情報センター・・・・・・・・・・・・ 2 6

III 資料

- 依存症対策総合支援事業における精神保健福祉センターの取り組み報告
および今後の課題について・・・・・・・・・・・・ 2 7

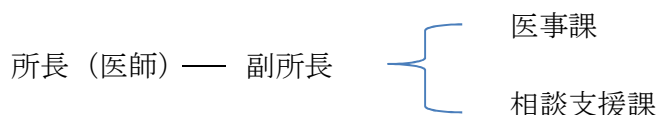
I 概要

1. 沿革

- ・昭和 42 年 4 月 「精神衛生センター」として発足
- ・昭和 63 年 7 月 精神保健法の施行に伴い、「精神保健センター」に改称
- ・平成 7 年 7 月 精神保健法の改正に伴い、「精神保健福祉センター」に改称
- ・平成 14 年 4 月 精神保健福祉法の改正に伴い、精神医療審査会事務及び、通院医療費公費負担・精神障害者保健福祉手帳判定業務を開始
- ・平成 20 年 9 月 「高次脳機能障害者支援センター」設置
- ・平成 21 年 9 月 「自殺予防情報センター」設置
- ・平成 23 年 3 月 現在地（ハートピアかごしま 2 階）に移転
- ・平成 29 年 9 月 「依存症に関する相談の拠点」設置

2. 組織、職員及び施設概要 (R 3.4.1 現在)

(1) 組織状況



(2) 職種別職員数

職種	精神科医師	事務	保健師	心理	計	会計年度任用職員
人数	1	4	4	1	10	4

* 会計年度任用職員：高次脳機能障害者支援員 1 人，自殺対策調整員 1 人，補助事務員 2 人

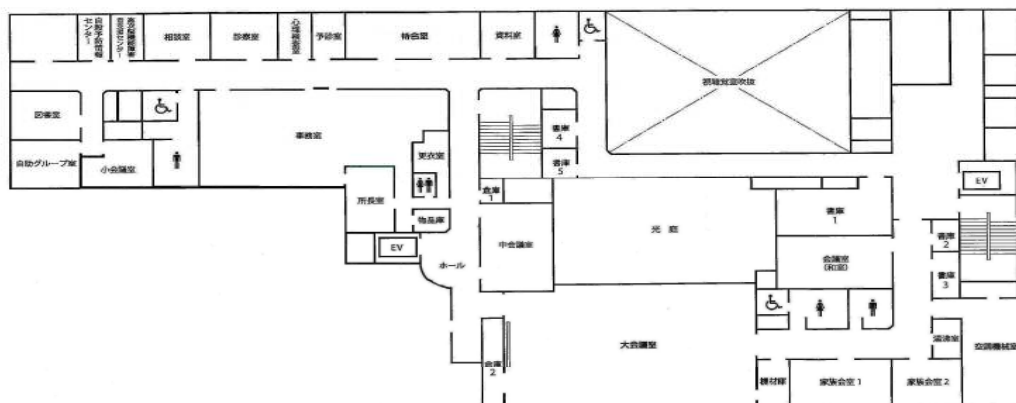
* 非常勤職員：精神医療審査会委員 2 9 人
 自立支援医療費（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳判定会委員 4 人

※ 兼務職員：ハートピアかごしま総務課職員 2 人

(3) 施設概要

①所在地：鹿児島市小野一丁目 1 番 1 号（ハートピアかごしま 2 階）

②平面図



Ⅱ 事業実績

1. 普及啓発

一般住民に対して精神保健福祉や精神障害に関する知識について普及啓発を行うとともに、保健所及び市町村が行う普及啓発活動に対して協力及び援助を行っている。

(1) 普及啓発（令和3年度）

内 容	実施数(回)	参加人数(人)
依存症家族教室	14	58
依存症回復支援研修会	1	212
心の健康を考えるつどい (鹿児島県精神保健福祉協議会主催/YouTube配信)	1	【視聴回数】 1400回
計	16	270

(2) リーフレットの作成・配布

	内 容	配 布 先
1	高次脳機能障害者連携支援ノート(わたしのノート)作成	協力病院、家族会のほか、来所相談時や研修会の際に配布
2	「お酒・薬物・ギャンブルなどのことで悩んでいませんか？」リーフレット作成	県内保健所のほか、関係機関に配布

2. 技術援助・教育研修

地域精神保健福祉活動を推進するため、保健所、市町村及び関係機関に対し、技術援助や研修を行っている。

(1) 技術援助(令和3年度)

(単位:件)

項目	老人精神保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	思春期	心の健康づくり	ひきこもり	自殺関連	犯罪被害	災害	高次脳機能障害	その他	計	電話
実施 件数															
対象 機関 ・施設	0	27	9	5	8	4	14	1	3	1	0	14	80	166	88
保健所	0	0	1	0	0	1	2	0	1	0	0	1	7	13	17
市町村	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	18
医療施設	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	16	12
その他	0	27	9	7	11	4	13	2	4	1	0	16	61	155	41
合計	0	27	12	7	11	5	15	2	6	1	0	17	82	185	88

(注) 実施件数は、技術援助を行った会議や研修会等の回数であり、一回の会議や研修会等で複数の対象機関や施設に技術援助を行うことがあるため、対象機関や施設の合計と実施件数は必ずしも一致しない。

(2) 職員の派遣及び関連会議等への出席状況（令和3年度）

① 保健所等

依 頼 機 関	内 容	従 事 者
県地域振興局・支庁保健福祉環境部（保健所）	精神保健福祉業務連絡会 （名瀬保健所）	所長
	新型コロナウイルス感染症疫学調査 （始良保健所）	保健師
	屋久島地区精神保健福祉相談 （屋久島保健所）	所長
	屋久島地区心の健康教室 （屋久島保健所）	所長
	アルコール関連学習会 （徳之島保健所）	心理士
鹿児島市	自殺予防対策委員会	課長

② 県部局等

依 頼 機 関	内 容	従 事 者
総務事務センター健康管理係	職員健康審査会	所長
	試し出勤等に係る調整会議	所長
	試し出勤終了前等の産業医面接	所長
	職場復帰支援の調整会議	所長
	メンタル不調者支援に係る検討会	所長
人事委員会	障害者雇用に関する検討会	所長
高齢者生き生き推進課	高齢者虐待防止推進会議	所長

障害福祉課	精神科病院実地指導・指導打ち合わせ会議	所長, 保健師
	ギャンブル依存症対策推進計画策定委員会	所長, 課長, 心理士
	アルコール健康障害対策推進協議会	所長, 心理士
	てんかん治療医療機関連絡協議会	所長
	精神科病院実地審査・実地指導	所長
	措置入院3か月, 4か月診察	所長
	精神科医療救急システム連絡委員会	所長
	県障害者自立支援協議会	課長
	ギャンブル対策推進計画庁内会議	課長, 心理士
	障害者雇用支援連絡協議会	所長
	障害者自立厚生等知事表彰審査委員会	所長
	障害者地域移行・地域定着担当者会議	課長
保健医療福祉課	新型コロナウイルス感染症調整本部医療体制の整備に係る会議(精神班)	所長
薬務課	薬物乱用対策推進地方本部会議	所長
男女共同参画室	配偶者からの暴力対策会議	課長
こども総合療育センター	こども総合療育センター連絡協議会	所長
県立短期大学	衛生委員会	所長
	教職員の健康に関する研修会	所長
県立始良病院	医療観察病棟倫理会議	所長
	始良病院倫理委員会	所長
鹿児島県警察本部	ピアサポーター研修会(幹部職員向け)	所長
	県警職場復帰支援面接	所長
	職場復帰支援の調整会議	所長

③教育庁等

依 頼 機 関	内 容	従 事 者
義務教育課	いじめ問題対策連絡協議会	所長
教職員課	指導が不適切な教員に係る審査委員会	所長
総合教育センター	子供に関する相談機関の合同相談会 「心のふれあい相談」	心理士
教育庁	県教育支援委員会	所長

④その他の関係機関

依 頼 機 関	内 容	従 事 者
県地域生活定着支援センター	県地域生活定着支援センター関係機関連絡会議	課長
かごしま子ども・若者総合相談センター	実務者連絡会議	心理士
	連絡協議会	課長
鹿児島障害者職業センター	発達障害者雇用支援連絡協議会	所長
	発達障害者等就労支援連絡協議会	所長
	障害者雇用支援連絡協議会	所長
	職員研修	所長
鹿児島保護観察所	医療観察制度運営連絡協議会	課長（所長代理）
	依存症問題を抱える者の家族を対象とした家族会	心理士
障害者就労・生活支援センター	おおすみ障害者就労・生活支援センター連絡会議	支援員
	南薩障害者就労・生活支援センター連絡会議	支援員
県社会福祉協議会	新任生活保護担当職員研修	所長
	生活困窮者自立支援事業担当職員研修会	心理士
いのちの電話協会	鹿児島いのちの電話公開講座	所長

国立障害者リハビリテーションセンター	高次脳機能障害全国連絡協議会	保健師，支援員
県精神保健福祉連合会 (NPO法人かせいれん)	かせいれん総代会	所長，課長
アディクション問題研究会	アディクション問題研究会	所長，課長，心理士
県多重債務対策協議会	借金・債務に関する無料相談（心の相談）	課長
九州財務局鹿児島財務事務所	借金と心の無料相談会	心理士
鹿児島労働局	就職氷河期世代活躍支援かごしまプラットフォーム会議	所長
地域包括支援センター（伊敷台）	高次脳機能障害者の検討会	支援員

(3) 教育研修 (令和3年度)

① 精神保健福祉業務従事者研修会

実施日 (会場)	内 容	参加機関 (人数)
令和3年 5月25日 (火) (中止)	開催中止 (新型コロナウイルス感染症感染拡大のため) 1 講話「精神障害の理解と措置業務の基礎知識」 講師：竹之内 薫 所長 (精神保健福祉センター) *資料を各関係機関に配布。	保健所, 市 町村

② 高次脳機能障害者支援に関する研修会

実施日 (会場)	内 容	参加機関 (人数)
令和3年 9月3日 (中止)	【高次脳機能障害支援圏域研修会：北薩圏域】 *新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。	医療機関, 相談 支援事業所, 障 害福祉事業所, 介護保険事業 所, 行政等
令和3年 12月1日 (水) (ハートピアか ごしま)	【高次脳機能障害理解のための講演会】 1 講話「高次脳機能障害の理解と対応」 講師：米田 孝一 氏 (鹿児島大学法文学部人文学科教授 ・鹿児島大学病院心身医療科医師) 2 家族による体験発表 「高次脳機能障害の夫とともに 日常～非日常～ そして少し変化した日常へ」 野角 伸子 氏	医療機関, 保健 所, 市町村, 就 労支援機関, 相 談支援事業所, 介護保険事業所 計 46名

令和4年 2月7日 (中止)	【高次脳機能障害者支援のための専門家研修】 *新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とした。	医療機関，相談支援事業所，障害福祉事業所，介護保険事業所，行政等
----------------------	---	----------------------------------

③ 自殺対策に関する研修会（自殺予防情報センター事業含む）

実施日 (会場)	内 容	参加機関 (人数)
令和3年 7月30日 (金) (かごしま県民交流センター及びオンライン開催)	【思春期精神保健福祉従事者・自殺対策関係者研修会（若年層支援）】 1 講演 「精神疾患を抱えた親のいる家庭での子どもの育ち」 講師：長沼 葉月 氏 (東京都立大学人文社会学部准教授) 2 取組紹介 一般社団法人パーソナルサービス支援機構 代表：大倉 一真 氏	保健所，市町村，教育機関，相談機関 等 計 280名 うちWeb参加68名
令和3年 12月24日 (金) (ハートピアかごしま)	【自殺未遂者支援研修会】 1 講演「自殺未遂者やその家族への支援について」 ～地域での体制を考える～ 講師：高橋 聡美 氏 (中央大学人文科学研究所 客員研究員)	保健所，市町村，医療機関等 計 147名 うちWeb参加127名

④ 依存症対策に関する研修会

実施日 (会場)	内 容	参加機関 (人数)
令和4年 1月19日 (水) (オンライン開催)	<p>【依存症回復支援研修会】</p> <p>* 依存症治療拠点機関である指宿竹元病院及び森口病院，産業保健総合支援センターと共催</p> <p>講演 「人を信じられない病～信頼障害としてのアディクション～」</p> <p>講師：小林 桜児 氏</p> <p>(神奈川県立精神医療センター依存症診療科・依存症研究室)</p>	<p>保健所，市町村，医療機関，相談機関等</p> <p>計 212名</p>

⑤ 思春期精神保健福祉に関する研修会（再掲）

日時等	内 容	参加予定機関
令和3年 7月30日 (金) (かごしま県民交流センター及びオンライン開催)	<p>【思春期精神保健福祉従事者・自殺対策関係者研修会（若年層支援）】</p> <p>1 講演 「精神疾患を抱えた親のいる家庭での子どもの育ち」</p> <p>講師：長沼 葉月 氏</p> <p>(東京都立大学人文社会学部准教授)</p> <p>2 取組紹介</p> <p>一般社団法人パーソナルサービス支援機構</p> <p>代表：大倉 一真 氏</p>	<p>保健所，市町村，教育機関，相談機関 等</p> <p>計 280名</p> <p>うちWeb参加68名</p>

(4) 学生等に対する教育・実習（令和3年度）

対 象	内 容	回数(回)	対象者数(人)
鹿児島大学 医学部	学外臨床実習（医学科）等	6	78
	臨床神経精神医学講義（保健学科：作業療法士専攻）	1	20
鹿児島国際大学・鹿児島大学， 鹿児島純心大学，志學館大学	精神保健福祉援助実習並びに 公認心理師実習	1	61
計		8	159

3. 精神保健福祉相談

心の健康相談や精神医療に係る相談、アルコール、薬物、思春期、認知症に関する相談など精神保健福祉全般の相談を実施している。来所相談は予約制で、新規相談は毎週木曜日の午前中に開設。また、専門相談として毎月1回、思春期相談、依存症相談、薬物相談を行っている。

(1) 来所相談・・・センター医師および専門医師が対応した面接相談

①来所相談件数推移

(単位：件)

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
新規相談（実）	129	105	75
継続相談（実）	34	30	21
計	163	135	96
（相談延べ件数）	（368）	（328）	（229）

新規相談は本年度初回，継続相談は前年度からの継続

②新規相談者の内訳（令和3年度）

②-1 年齢別相談者人数（新規）

(単位：人)

年齢	～9	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上	不明	計
男	0	15	4	6	10	3	2	1	0	41
女	0	14	5	3	3	6	1	2	0	34
計	0	29	9	9	13	9	3	3	0	75

②-2 保健所別相談者数

保健所	人	保健所	人	保健所	人
鹿児島市	42	川薩	3	西之表	0
指宿	1	大口	0	屋久島	1
加世田	4	始良	11	名瀬	1
伊集院	5	志布志	0	徳之島	0
出水	2	鹿屋	5	不詳・県外	0

②-3 相談の処置別人数

処置	人数 (人)
継続	9
他機関紹介	21
終結	45
計	75

③ 相談理由別人数 (新規)

(単位:人)

相談理由	人数	相談理由	人数
気分が不安定	18	おかしな言動	0
眠れない	5	飲酒に伴う問題	4
食事がとれない	1	薬物依存の問題	0
不安・恐怖・こだわりが強い	8	ギャンブルに伴う問題	3
学校に行けない, 学校に適応できない	15	家族・近隣との問題	0
職場に行けない, 職場に適応できない	4	その他行動上の問題	4
家から外に出ることができない	2	性格・対人関係の問題	1
もの忘れ	0	その他	10
計			75

④ 新規相談および延べ相談者の相談内容別件数

(単位:件)

	老人精神	社会復帰	アルコール関連問題	薬物	ギャンブル・ゲーム	思春期	心の健康	うつうつ状態	その他	合計
新規	1	3	4	0	4	28	23	7	5	75
延べ	4	3	4	0	5	29	50	37	97	229

(2) 保健師, 心理士が対応した来所面接相談

(単位: 件)

	老人 精神	社会 復帰	アルコール 関連問題	薬物	ギャンブル	思春 期	心の健康	うつ ・うつ 状態	その他	合計
対 応 数	0	1	7	17	4	7	25	3	19	83

(3) 電話相談

①電話相談延べ件数推移

(単位: 件)

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
延べ件数	2, 518	3, 337	4, 025

②相談内容 (令和3年度)

	相談内容	人数 (人)
精神科疾患に関する こと	病気・治療・薬のこと	179
	うつ・うつ状態	32
	社会復帰・福祉制度等	27
	人間関係・日常生活	1754
	家族等の対応	57
	その他	46
認知症・介護に関する こと		20
アディクション関連問題	アルコール	118
	シンナー・薬物	33
	ギャンブル	90
	ゲーム	2
	過食・拒食等	5
	その他	40

思春期問題に関すること	不登校・ひきこもり	53
	学校生活（いじめ・友人関係等）に関すること	3
	情緒不安定	25
	身体的不調（頭痛・腹痛・倦怠感）	3
	性格・行動	28
	発育・発達に関すること	12
	非行・反社会的行動	0
	その他	27
心の健康に関すること	言動が奇異	40
	気分の落ち込み・うつ状態	74
	希死念慮	16
	不安・恐怖・こだわり	29
	家族関係の悩み・ストレス	205
	職場関係の悩み・ストレス	94
	その他人間関係の悩み・ストレス	76
	ひきこもり	20
	DVに関すること	1
	病院・相談機関等の情報	42
	その他	167
その他	707	
計		4025

（４）新型コロナウイルスに関する相談

- ① 専用電話での相談業務は、令和２年７月～令和３年３月まで実施。
以降は（３）電話相談で対応。

② 宿泊施設における心のケア相談

新型コロナウイルス感染症の感染者増加により、軽症者の宿泊療養が開始になった7月から実施している。宿泊療養者全員に K6 日本語版（注）を記入してもらい、5点以上の入所者に内線電話により相談対応をしている。

（単位：件）

実件数	延べ件数	鹿児島市内に開設された宿泊療養所4か所に週1回ずつ訪問
525	529	

（注）K6 日本語版：国民生活基礎調査で用いられるうつ・不安障害のスクリーニング

4. 思春期精神保健対策事業

精神保健福祉相談のなかでも「特定相談」に指定され、知識の普及や相談指導等思春期における個別相談や研修会を実施している。

（1）思春期相談（再掲）

年15回（毎月1～2回）専門医による相談を実施するとともに、心理士・保健師による来所相談、電話相談を行っている。

（単位：人）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
来所相談	34	35	35
電話相談	149	144	151

① 来所者年齢内訳

（単位：人）

小学生	中学生	高校生	中卒 高校中退	高卒 大学生	計
5	10	18	1	1	35

② 来所者主訴内訳

（単位：人）

不登校 ひきこもり	情緒 不安定	身体的 不調	性格 行動	非行 反社会的行動	その他	計
19	1	0	5	0	10	35

(2) 思春期精神保健に関する研修会（再掲）

日時等	内 容	参加予定機関
令和3年 7月30日 (金) (かごしま県 民交流センター及びオンライン開催)	【思春期精神保健福祉従事者 ・自殺対策関係者研修会（若年層支援）】 1 講演 「精神疾患を抱えた親のいる家庭でのこどもの育ち」 講師：長沼 葉月 氏 （東京都立大学 人文社会学部 准教授） 2 取組紹介 一般社団法人パーソナルサービス支援機構 代表：大倉 一真 氏	保健所，市町村，教育機関，相談機関等 計 280名 うちWeb参加68名

5. 依存症対策関連事業

平成29年9月に，精神保健福祉センターに依存症相談拠点を設置し，相談員による依存症専門相談窓口を開設した。

平成30年4月からは，専門医による依存症専門相談窓口を開設するとともに，依存症家族教室を開始している。

(1) 依存症相談(再掲)

毎月1回専門医による相談を実施するとともに，心理士・保健師による来所相談，および電話相談を実施している。

(単位：人)

	専門医	相談員	電話相談	計
アルコール	2	7	118	127
薬物	0	17	33	50
ギャンブル	2	4	90	96
その他	1	4	47	52

※ 薬物依存症については，令和元年7月から Voice Bridge Project に参加し継続的な支援を行っている。

(2) 研修会の開催 (再掲)

日 時	内 容	参加者 (人)
令和4年 1月19日 (水) (オンライン開催)	<p>【依存症回復支援研修会】</p> <p>* 依存症治療拠点機関である指宿竹元病院及び森口病院，産業保健総合支援センターと共催</p> <p>講演 「人を信じられない病～信頼障害としてのアディクション～」</p> <p>講師：小林 桜児 氏</p> <p>(神奈川県立精神医療センター依存症診療科・依存症研究室)</p>	<p>保健所，市町村，医療機関，相談機関等</p> <p>計 212名</p>

(3) 依存症家族教室 (平成30年度から開催)

令和2年度より，①アルコール・薬物依存症家族教室 ②ギャンブル等依存症家族教室に分け，本人や家族の回復に必要な知識や関わり方を学び，家族同士の交流を通じて支え合うことを目的に開催している。

①アルコール・薬物依存症家族教室

月1回×6回を1クールとし，前期・後期に分けて開催した

(内容及び参加人数)

(単位：人)

テーマ	前期		後期	
	開催月	参加人数	開催月	参加人数
オリエンテーション・依存症とは	4月	5	10月	5
上手なコミュニケーションで本人を治療につなげる	5月	4	11月	5
長期的な回復を支え，再発・再使用に備える	6月	中止	12月	4
家族のセルフケア	7月	3	1月	中止
コミュニケーションスキルの練習	8月	中止	2月	中止
振り返りと今後の目標	9月	中止	3月	1
合計 (実人数)	前期計	7	後期計	7
合計 (延べ人数)		12		15

※6，8，9，1，2月は新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止

②ギャンブル等依存症家族教室

月1回×6回を1クールとし、前期・後期に分けて開催した

(内容及び参加人数)

(単位：人)

テーマ	開催月	参加家族人数
オリエンテーション・ギャンブル等依存症とは	4月	3
コミュニケーションスキルの学習	5月	中止
借金問題への対応について	6月	4
長期的な回復を支える	7月	5
家族のセルフケア	8月	中止
振り返りと今後の目標	9月	中止
前期 合計 (実人数)		5
前期 合計 (延べ人数)		12
オリエンテーション・ギャンブル等依存症とは	10月	5
借金問題への対応について	11月	4
コミュニケーションスキルの学習	12月	5
長期的な回復を支える	1月	中止
家族のセルフケア	2月	中止
振り返りと今後の目標	3月	5
前期 合計 (実人数)		7
前期 合計 (延べ人数)		19

※5, 8, 9, 1, 2月は新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止

6. 調査研究

地域精神保健福祉活動を推進するために以下の調査研究を行った。

- 依存症対策総合支援事業における精神保健福祉センターの取り組み報告および今後の課題について(資料を参照)

また、依存症家族教室で使用している国立精神神経医療研究センター作成の「薬物依存症をもつ家族を対象とした心理教育プログラム」の効果について、アンケート調査に協力した。

7. 関係団体の育成

地域精神保健福祉の向上を図るため、家族会、患者会等の支援を行っている。

(令和3年度)

(単位：回)

対象	内容	回数
鹿児島県精神保健福祉会連合会	理事会	1
鹿児島県断酒友の会	ミーティング	3
アルコール依存症家族の会	ミーティング	0
ひきこもり家族の会	ミーティング	8
セルフヘルプネットかごしま	例会	5
こころ・つむぎの会	例会	4
高次脳機能障害「ぷらむ」鹿児島	家族交流会	1
計		22

(1) 鹿児島県精神保健福祉会連合会 (略称 NPO法人かせいれん)

昭和59年9月に鹿児島県精神障害者家族会連合会として発足し、平成21年6月に解散して鹿児島県精神保健福祉会連合会として活動を一本化。現在、9の地域家族会と1つの病院家族会、6施設で活動している。例年は、友愛フェスティバル等を行っているが、令和3年度は中止となった。

(2) かごしまダイケア連絡協議会

平成24年5月に精神科ダイケアを実施している医療機関の職員が、ダイケアについて研究・協議し、知識・技術を習得することを目的に設立。センター職員は、

顧問、アドバイザーとして参加しているが、令和3年度はコロナ禍で開催できなかった。

(3) 鹿児島県断酒友の会

昭和46年に発足し、毎月1回例会を行い、お互いの断酒を支え合うとともに、家族ぐるみの交流も行っている。令和3年度は新型コロナウイルス感染防止のため中止した月もあった。

(4) アルコール依存症家族の会

平成7年度から開催していた「アルコール依存症家族教室」の参加者を中心に結成。平成13年度から家族ミーティングを主体とした家族の会となり、毎月1回実施している。令和3年度は新型コロナウイルス感染防止のためとメンバーの高齢化に伴い休会したい旨の申し出があった。電話相談には応じるとしている。

(5) セルフヘルプネットかごしま

平成12年度に地域活動支援センター「ソーバーハウス」と共催で「セルフヘルプフォーラム」を開催。平成15年度からは当事者の代表者と支援者で構成される「セルフヘルプネットかごしま」として活動を開始した。年1回のフォーラムと毎月1回定例会を行っている。現在当事者団体は4、支援者団体は7。

(6) ひきこもり家族の会

平成15年度から3か年計画で「ひきこもり家族教室」を開催し、平成19年度からは「ひきこもり家族の会」として開催していたが、平成29年4月からは自助グループとして毎月1回活動を継続している。

(7) こころつむぎの会

平成20年9月に開催した「自殺対策シンポジウムIN鹿児島」で自死遺族から分かち合いの会を望む声があがり、同年12月に「分かち合いの会」準備会を開催し家族、助言者を交えて検討をし、平成21年8月に分かち合いの会「こころつむぎの会」をスタートさせた。偶数月に開催している。

(8) 高次脳機能障害「ぷらむ」鹿児島

平成16年9月に6家族で、脳外傷「ぷらむ」鹿児島を設立。平成19年4月に高次脳機能障害「ぷらむ」鹿児島と名称を変更。家族・当事者交流会や「脳トレ教室」、講演会の開催、会報誌の発行等を行っている。

8. 精神医療審査会の審査に関する事務

精神科病院に入院中の者や家族等からの退院や処遇改善の請求について、その請求が適正であるか、また、医療保護入院の届出、措置入院者及び医療保護入院者に係る定期病状報告書について、その入院の必要性を審査している。また、審査会専用の電話を設置し、退院等請求者に対応している。

(1) 審査会開催状況

合議体審査会・・・27回（9回×3合議体）

全体会・・・・・・・・・・新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止

(2) 退院等請求の審査状況推移

(単位：件)

年度	措置入院者 定期病状報告書	医療保護入院者 入院届	医療保護入院者 定期病状報告書	計	退院・処遇 改善請求件数	退院・処遇 改善請求 審査件数
H29	20	2,524	1,679	4,223	152	101
H30	14	2,448	1,607	4,069	131	90
R1	17	2,541	1,562	4,120	128	78
R2	20	2,484	1,578	4,082	150	68
R3	27	2,583	1,650	4,260	123	69

9. 自立支援医療費（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳の判定交付事務

自立支援医療費（精神通院）の支給認定及び精神障害者保健福祉手帳の申請に対する審査を行い、受給者証及び手帳の交付を行っている。

(1) 自立支援医療費（精神通院）

①自立支援医療費（精神通院）申請承認件数推移

(単位：件)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
申請件数	25,933	28,706	27,457
承認件数	25,987	28,697	27,453

②疾患名・年齢別自立支援受給者証交付者数（令和3年度）

（単位：人）

疾患名		総数	自立支援受給者証交付者数				
			20歳未満	20歳以上 40歳未満	40歳以上 65歳未満	65歳以上 75歳未満	75歳以上
F0	症状性を含む器質性精神障害	1,022	1	63	317	298	343
F1	F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	650	0	41	340	209	60
	覚せい剤及び覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	65	0	8	49	7	1
F2	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	9,626	34	1,622	5,722	1,869	379
F3	気分（感情）障害	9,966	53	2,262	5,578	1,704	369
F4	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	1,654	67	569	806	170	42
F5	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	37	1	18	15	0	3
F6	成人のパーソナリティ及び行動の障害	139	1	55	70	11	2
F7	精神遅滞〔知的障害〕	332	8	127	166	27	4
F8	心理的発達障害	728	147	424	150	6	1
F9	小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	533	131	287	112	0	3
F99	特定不能の精神障害	4	0	2	2	0	0
G40	てんかん	2,697	314	955	1,060	314	54
計		27,453	757	6,433	14,387	4,615	1,261

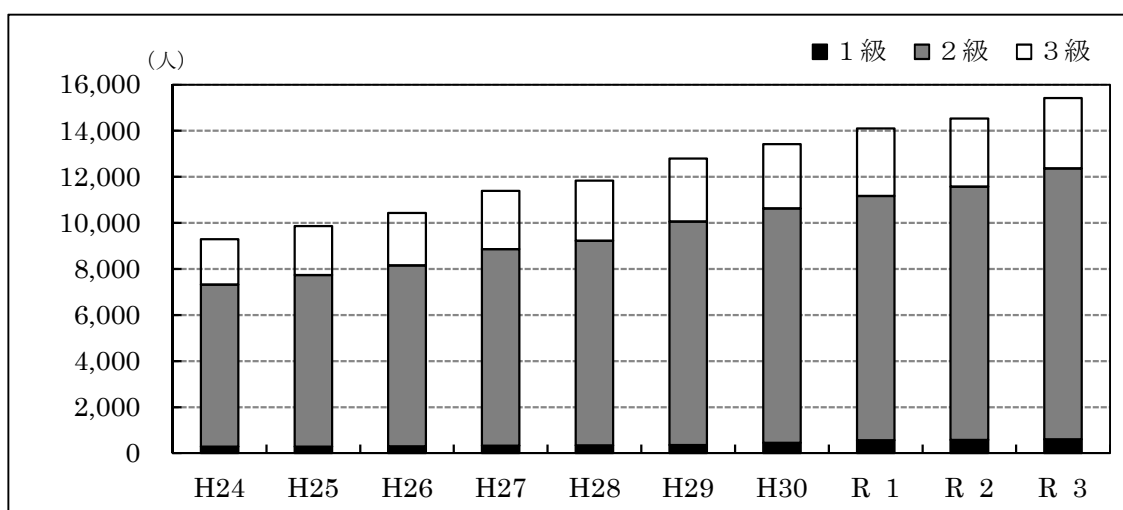
(2) 精神障害者保健福祉手帳所持者数推移

(単位：人，%)

年度	1級	2級	3級	計
H24	292	7,029	1,968	9,289
	3.1	75.7	21.2	
H25	287	7,211	2,048	9,546
	3.0	75.5	21.5	
H26	304	7,848	2,280	10,432
	2.9	75.2	21.9	
H27	323	8,538	2,529	11,390
	2.8	75.0	22.2	
H28	343	8,880	2,607	11,830
	2.9	75.1	22.0	
H29	364	9,697	2,726	12,787
	2.9	75.8	21.3	
H30	458	10,163	2,804	13,425
	3.4	75.7	20.9	
R1	571	10,599	2,927	14,097
	4.1	75.2	20.7	
R2	574	10,966	2,962	14,532
	3.9	75.7	20.4	
R3	610	11,750	3,066	15,426
	3.9	76.2	19.9	

※手帳の有効期限切れを除く，各年度末の所持者数を記載

※上段は所持者数，下段は構成比



精神障害者保健福祉手帳所持者数

10. 高次脳機能障害者支援センター

平成 20 年 9 月高次脳機能障害者への支援拠点機関として、精神保健福祉センター内に設置され、高次脳機能障害者支援員が高次脳機能障害者に対する専門的な相談支援、関係機関との地域支援ネットワークの充実、関係者への研修等を行っている。

平成 30 年には協力医療機関の指定を開始し、現在は 34 医療機関ある。

(1) 来所相談

(来所相談延べ件数推移)

(単位：件)

年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
延べ件数	9 2	7 2	5 5

(2) 電話相談

(電話相談延べ件数推移)

(単位：件)

年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
延べ件数	4 3 0	4 6 2	4 7 1

(3) 研修会の開催（詳細は、教育研修参照）

- 専門家研修・・・協力病院や高次脳機能障害者に関わる関係者などを対象にセンターと保健医療福祉圏域毎に開催している。
- 一般研修・・・一般県民に高次脳機能障害を理解してもらうために実施。
- ぷらむ鹿児島との共催による、子どもをもつ家族の交流会に参加。

(4) センターだよりの作成

センターの活動実績やトピックス等のまとめとして年 1 回作成し、協力医療機関や関係機関等に配布し、周知・広報に役立てている。

(5) リーフレットの作成

支援者同士の連携につながり、適切な支援を受ける手助けになるよう鹿児島県高次脳機能障害者連携支援ノート「わたしのノート」を作成。

11. 自殺予防情報センター

平成 21 年自殺対策を推進するため、精神保健福祉センター内に設置され、自殺対策調整員が自殺に関する情報収集・分析、情報提供や自殺対策に関わる団体・人材の育成、自死遺族等の支援を行っている。

(1) 来所相談

(来所相談延べ件数推移)

(単位：件)

年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
延べ件数	4	4	6

(2) 電話相談

(電話相談延べ件数推移)

(単位：件)

年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
延べ件数	3 8 8	1 0 6 3	1 1 4 9

(3) 研修会の開催 (詳細は、教育研修参照)

本県が重点的に自殺対策を講じる必要がある課題は、「高齢者」、「生活困窮者」、「被雇用者・勤め人」に加えて、死因の第 1 位が自殺となっている「子ども・若者」や自殺未遂者などの「ハイリスク者」となっている。

○「若年層支援者むけ研修会」を開催

内容①講話「精神疾患を抱えた親のいる家庭での子どもの育ち」

内容②取組紹介「一般社団法人 パーソナルサービス支援機構」

○「自殺未遂者の支援者むけ研修会」を開催

内容①講話「自殺未遂者やその家族への支援について」

～地域での体制を考える～

Ⅲ 資料

依存症対策総合支援事業における精神保健福祉センターの 取り組み報告および今後の課題について

精神保健福祉センター ○堤 聖子 竹之内 薫 上村 真弓

1 はじめに

本県は焼酎の消費量が全国で最も多く、成人一人当たりのアルコール消費量は毎年全国平均を上回っている。また、人口10万人当たりの遊技場店舗数が全国1位であるなど、本県の県民にとって依存症はとても身近な病気である。一方で、文化的な背景や社会資源の少なさなどによって適切な支援に繋がりにくく、本人や家族が孤立しやすい状況にある。

県では平成30年度より依存症対策総合支援事業を開始した。今回は本事業におけるこれまでの当センターの取り組みについて報告するとともに、令和4年1月の支援者を対象とした研修会で行ったアンケート調査結果について考察したので報告する。

2 これまでの当センターの取り組み

(1) 依存症専門相談の実施

平成30年4月より、専門的に依存症治療を行っている医療機関の医師による相談を月1回当センターにて実施している。令和2年度末までに延べ47件の相談に対応し、助言や医療機関・自助グループ等の紹介を行った。

(2) 依存症家族教室の実施

平成30年4月より、依存症者の家族を対象とした学習や分かち合いのための家族教室を月1回開催している。当初は「依存症家族教室」としてアルコール・薬物・ギャンブル依存症の家族を対象に行っていたが、参加人数の増加や依存対象毎に必要な知識や支援機関が異なることを考慮し、令和2年度からは「アルコール・薬物依存症家族教室」と「ギャンブル等依存症家族教室」の2グループに分けて実施している。

内容は、当センター職員の進行によるプログラムに沿った学習や家族同士の分かち合いのほか、テーマに応じて医療機関や専門相談機関、自助グループにも参加を依頼し、参加家族が他の支援機関とつながる機会を取り入れている。令和2年度末までに延べ224名の家族が参加した。

(3) 依存症回復支援研修会の開催

令和元年度より年1～2回、支援者むけの研修会を開催している。令和元年度は2回(うち1回は保護観察所と共同開催)、令和2年度は1回集合形式で開催し、令和3年度は依存症治療拠点機関(令和3年2月に指

定)や協力機関と共同でオンラインにて開催した。令和3年度の研修会では外部の専門医による講演のほか、県内の支援機関の周知のために鹿児島おいどんダルクや依存症治療拠点機関の紹介等を行い、県内外の40機関より合計212名の支援者が参加した。

(4) 普及啓発活動

相談拠点である当センターを周知するためのリーフレットやポスターを作成して関係機関に配布している。また、県内の機関(保健所、保護観察所、保護司会等)からの依頼により、医師や心理士が支援者や家族向けに依存症の知識や支援に関する講演を行っている。

3 アンケート調査

(1) 調査対象

令和3年度依存症回復支援研修者に参加した支援者(日常業務として依存症支援に携わる者および依存症患者やその家族とかかわる可能性がある者)212名のうち、アンケートへの協力が得られた72名(アンケート回収率34%)。

(2) 調査内容

表1の内容について、オンラインで回答を求めた。

4 結果

(1) 参加者及びアンケート回答者の勤務地区内訳について(図1, 図2)

いずれも鹿児島市に次いで大島地区、熊毛地区の順に多かった。

(2) 今後の研修会で希望する内容(図3)

家族支援に関する内容が70.8%と最も高く、続いてインターネット・ゲーム、アルコールと続いた。また、半数以上のアンケート回答者が地域連携・地域支援に関心を持っていた。

(3) 地域の課題について

自由記述の回答内容分析した結果、①社会資源が乏しく介入方法に困っている、②飲酒を勧めるような文化的な背景があり、家族や親戚・地域住民の理解を得ることが難しい、③家族支援が十分にできていないという内容が多かった。

特に上記項目の①②については、大島地区からの意見が多かった。

(4) 支援者が希望する支援体制について

自由記述の回答内容を分析した結果、①本人や家族が気軽に相談できる場がほしい、②家族が安心して依存症の正しい知識や本人への関わり方を学ぶことができる場の提供、③支援者が研修やスーパーバイズを気軽に受けられる体制の整備というような意見が多く、これらは相談拠点である精神保健福祉センターや治療拠点機関(医療機関)に期待することとも共通していた。また、離島からは上記についてオンラインでの実施を希望する声もあった。

さらに、地域で自助グループを立ち上げたいためきっかけとなるような機会を作ってほしいという意見や地域の支援ネットワーク体制の整備を期待する意見も複数寄せられた。

5 考察及び今後の課題

離島地域は社会資源が少ないだけでなく文化的な背景(飲酒の勧奨や密な人間関係)等から地域の理解が得られにくい状況にある。そのため、支援者の困り感も強いが、一方で支援へのモチベーションも高いことが窺われ、オンライン等を駆使しながら、地域の理解の底上げを図るような普及啓発活動の実施や、支援者へのサポート体制を充実させていくことが有効と思われる。また、自助グループの立ち上げなど、社会資源の充実に向けたアプローチも必要である。

さらに、依存症は病気の特徴から本人より家族が先に相談につながることも多いため、支援者が家族に適切な助言等が行えるよう研修の場を設けるとともに、家族が依存症についての正しい知識や対応について学習したり、悩みを分かち合ったりできるような場を増やしていくことが望まれる。

6 まとめ

これまでは当センター内での支援の充実や支援者の技術向上を目的とした研修等を行ってきたが、今回の調査で各地域の支援者が、それぞれの地域での支援の充実のための直接的な支援やサポートを希望していることが明らかになった。今回の結果を参考に、依存症治療拠点機関や自助グループはじめ関係機関と連携しながら、今後の事業展開について検討していきたい。

<参考・引用文献>

- ・鹿児島県アルコール健康障害対策推進計画
- ・国税庁「酒のしおり」
- ・2020年全国遊技場店舗数及び機械台数(全日本遊技事業協同組合連合会調査)および2019年10月1日時点人口推計(統計局)

表1 アンケート調査項目

- ① 所属機関の分類
 - ② 職種
 - ③ 就労地区
 - ④ 今後の研修会で希望する内容
 - ⑤ 勤務地域における支援や支援体制の課題
 - ⑥ 勤務地域に希望する支援体制
 - ⑦ 依存症治療拠点機関、依存症相談拠点に期待すること
- ※①～④は選択式、⑤～⑦は自由記述で回答

図1 研修会参加者の勤務地区内訳 (n=212)

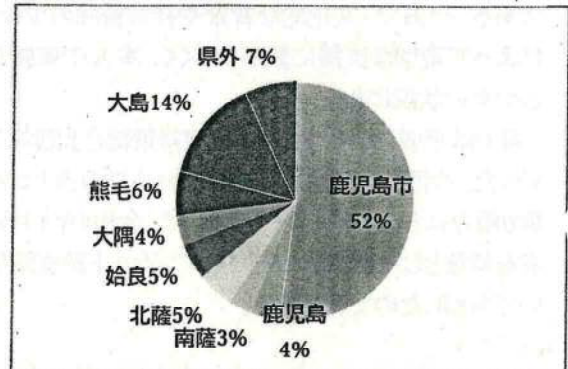


図2 アンケート回答者の勤務地区内訳 (n=72)

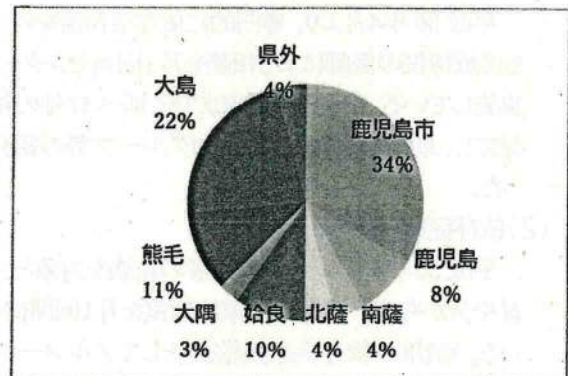


図3 今後研修を希望する内容 (複数回答 n=72)

